

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果(深谷小学校)

平均正答率

自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

	国語	算数
深谷小	上回った	上回った
埼玉県	69	64
全国	67.7	63.4

児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「している」「どちらかといえばしている」を合わせた値(単位 %)

	質 問 事 項	深谷小	埼玉県	全国
生活習慣	朝食を毎日食べている	95.7	94.4	93.7
	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	92.7	84.5	82.9
	毎日、同じくらいの時刻に起きている	94.2	92.3	91.6
学習習慣	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている	91.3	83.3	80.7
	学校の授業時間以外に、普段1日当たり1時間以上、勉強をする(学習塾や家庭教師、ICTを活用して学ぶ時間も含む)	62.2	58.5	54.6
	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強をする	59.3	50.8	48.6
	放課後や週末に、家で勉強や読書をして過ごすことが多い	42.0	50.2	49.3
教科への関心	国語の勉強は好きだ	75.4	63.0	62.0
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	95.6	94.0	93.2
	算数の勉強は好きだ	79.7	60.4	61.0
	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	95.6	94.8	94.1
主体的・対話的な学び	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	91.3	85.4	81.9
	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた	81.1	73.3	67.6
	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた	94.2	84.0	79.6
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができた	89.9	88.9	86.3
その他	自分には、よいところがあると思う	87.0	85.9	84.1
	将来の夢や目標をもっている	89.8	83.6	82.4
	人の役に立つ人間になりたいと思う	95.7	96.2	95.9
	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	91.3	84.3	83.5

【質問紙分析】

- ・「国語の勉強は好きだ」「算数の勉強は好きだ」の割合が、県や全国の割合と比べて高いのは、教師が子供たち一人一人に目を向け、学びに向かう力を育てる授業を日々実践しているからだと考えられる。
- ・「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」の割合が、県や全国の割合と比べて高いのは、教師が分かりやすい発表の仕方を児童に指導するだけでなく、「誰のために発表するのか」「何のために伝えるのか」という目的意識を持たせる工夫を授業の中で大切にしてきたからだと考えられる。
- ・「放課後や週末に、家で勉強や読書をして過ごすことが多い」の割合が、県や全国の割合と比べて低いのは、放課後は「学童や公民館、学習塾などの家以外の場所で勉強している」、週末は「スポーツに関する習い事をしている」「家族と過ごしている」の割合が高いからであると考えられる。

全国の平均正答率と比較して大きく上回った問題○と課題のある問題●とその理由

【国語】

○国語²三

出題の趣旨は「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。」であるが、漢字の指導において、文や文章の中で漢字を読むことや文脈の中での意味と結び付けていくことを指導したり、辞典を使って漢字の読み方や意味などを自分で調べる活動を積極的に取り入れたりしている結果だと考えられる。

○国語³三

出題の趣旨は「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる。」であるが、読むことの単元において、「どんな物語か」という内容面だけでなく、読みの観点（登場人物の人物像、登場人物の相互関係、物語の展開、表現の効果など）を押さえて指導している結果だと考えられる。

●国語²二

出題の趣旨は「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。」であるが、設問にある二つの条件を満たせて文章を書くことができていない児童が多かった。事実と感想、意見とを明確に区別できていないと考えられる。

【算数】

○算数²（1）

出題の趣旨は「計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。」であるが、授業において、児童に自分の考えをノートに書かせる際、式と答えのみならず、言葉での説明をノートに意識して書かせている結果だと考えられる。

○算数³（4）

出題の趣旨は「角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を

用いて記述できるかどうかをみる。」であるが、授業において、教師が「なぜ?」「どうして?」と理由を児童に意図的に問いかけたりノートに書かせたりしている結果だと考えられる。

●算数³（3）

出題の趣旨は「球の直径の長さで立方体の1辺の長さを求め、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる。」であるが、球の直径と立方体の1辺の長さが等しくなることを理解していないと考えられる。

●算数⁴（4）

出題の趣旨は「速さの意味について理解しているかどうかをみる。」であるが、速さなどの単位量当たりの大きさの意味や表し方についての理解が十分でないと考えられる。

課題への取組・改善策

【国語】

- ・事実と感想、意見を区別できるようにするために、説明文を読む際に、事実と意見にそれぞれ線を引かせる活動を取り入れる。また、文章を書く単元において、書く前の場面では、書く目的や内容を検討する時間を設定し、伝える相手を明確にしたり、何をどのように書くかを整理させたりする。記述する場面では、友達と助言し合いながら、児童自身が自分の文章を見直したり、書き直したりする活動を充実させる。

【算数】

- ・第3学年の球の指導において、中心、半径、直径を学習する際、球の断面が見てわかる教具を使って理解させる。また、球を箱にピッタリ入れたときの箱の縦・横の長さを図と具体物を使って十分に理解できるようにする。
- ・第5学年の速さの学習においては、速さの意味を日常生活の場面と結び付けて理解できるようにする。（距離が同じ場合は、かかった時間が短い方が速いということ、時間が同じ場合は、進んだ距離が長い方が速いということ、時速や分速での表し方など）